

# 仏眼御書

建治三年 五六歳

仏眼をかり、<sup>ぶつに</sup>仏耳をたまわりて、しめし候ひしかども、用ゐる事なければ、ついに此の  
国やぶれなんとす。<sup>びゃくらいびょう</sup>白癩病の者のあまたありて、一人の<sup>知</sup>しる人日蓮をにくみしかば、  
此の山にかくれて候。